



排華彙集

有文庫
三二一

9

73
3297

二十六



門保
號 9.287
卷

當家裝束以下

各目抄

胡書抄

當家着用装束以下事

束帶色目



冠布又小菱の文わし羅を用也近身羅織身と稱
して其又金銀の文は有文はしる冠の
大小其人の切らよとくし冠師とありしは
とらうまじ近身十六甲中より以願十六甲
以後はわし願を用日記考若年侍官の
十六以後は願を用し目し
武極大國世威は長は願を用はる久
三年事也後二重敷世二内大長時是月也



束帶色目

折下カサ子ト云
本ハ折下トモ
代ハ板引ニスル
スワウノ色ノモ
ムクナキノ如ニ
フミカ子ニテソム
ルナリ

みく裏の透ひの文の後表の例に似しイを仰し糸
少くまじりの三ねよなり但下襷は種々の下襷と
よ地へか打るを述代板引もよゆ種々の文
子業のまじり糸少くまじりねの事ありまじり
しくゆきけきまじり種々の文を殿上人の平
絹の下襷とけしのお下襷糸少を裏ハ
種々のまじり糸少く深き夏を穀の透き夏の文は
のまじり糸少の下襷種々のまじり糸少は夏の
下襷とい種々の下襷のまじり糸少をゆるおのつらお透を
まじり糸少非笑人友の下加糸少を文穀式生糸絹

色ハ二藍染花及青或云卿と著く柳下襷表は後の
白登表は青打之或裏面紙下と著くと正治二正十の園白
始著柳張下襷善賢寺園白白登表は正治二正十の園白
と表裏をりして正治二正十の園白に月十月連衣の外
暑くは暑月ま著く久安二年七月三日法勝寺門八梅
正治二正十の園白を暑月ま著くは見面宮死
は後記く時亦九倍例くのおと盛年の時を可著く
年著くはよく白綿

裾下襷衣の庵にじりけりたるをさるる時は
あまよりのまじり糸少を何となく下襷

大帷ぬすゝ不用之近代為衣又用之なる白皮の
紅深是といふ人の下にけりては夏は汗をまらぬ

と云ふより 老者者深し

表袴中少袴あり大長大袴と云はくは子の時白編
糸後衣（イロ）敷れ深文と用表は紅打平緋之十五
三三濃衣（イロ）少々三三打のうらと多し又大細
言大長衣の大袴と不系時（イロ）は文の條丸と云ふ
（イロ）者丸（イロ）は丸と用子細あり一日の晴（イロ）は密（イロ）と云
物政同白と深文（イロ）衣敷と云用は例也

赤口生平緋（イロ）紅も深く用之濃装束は濃生袴也

鞆着練貫（イロ）山袖之時は用練貫（イロ）宿（イロ）は白平緋（イロ）新（イロ）

履（イロ）鼻切履（イロ）といふ也（イロ）夏物は表袴のまねを用之

靴（イロ）靴（イロ）は衣代（イロ）の錦靴（イロ）草（イロ）はひきり（イロ）あは有黄金（イロ）細（イロ）

舎の内衣（イロ）衣云（イロ）師着（イロ）は幸伝（イロ）草の時（イロ）用之（イロ）深沓（イロ）

笏（イロ）并賀の時（イロ）衣（イロ）極（イロ）の口物と用ぬ（イロ）は度賀（イロ）笏と

あつく

扇十五歳（イロ）以下（イロ）松（イロ）目（イロ）扇繪（イロ）は松（イロ）鶴（イロ）あり（イロ）花物と云く

うらのうら（イロ）蝶（イロ）小鳥（イロ）と書（イロ）は（イロ）練（イロ）少（イロ）と云く（イロ）と云く

いとあま（イロ）り（イロ）と云（イロ）は（イロ）ひ（イロ）と（イロ）ひ（イロ）め（イロ）と云（イロ）は物（イロ）の（イロ）なり

毛布と次縫ひ付きく扇は白とく物あり
るわの蝶もさう柄ありし打く用は十六上は時分
看イと扇より山ありし物と柄扇は女五枚は年
の賦は白線少多とく線の縫と反は花も
物ありとるわありり(二三守物玉を強とく)
是中納言中納言十七八果の大納言大納言とく
物あり宿直は長ありとく時分は丸と線あり
とくしと多き物向小押之束帯は時分は柄扇
と物に衣冠直衣ありと物柄は扇幅の扇
と物に細あり老若は柄扇と物柄あり(出は)

夏はとく扇幅より人の例より一は
定治は府の夏は扇幅の扇と物柄は扇幅の扇
仁平元ハ十長老ノ尋イ 常少は是をより物ありし記よ
後春日宿直也 扇はとく物柄は扇幅の扇と物柄あり
保延四二四春日祭
上卿時
劔 時給六の尋常用之布化螺鈿劔泥比或行
幸時給之極螺鈿時給螺鈿劔紫橙常用之又
時給螺鈿六の尋常用之布化螺鈿劔泥比或行
螺鈿時給六の尋常用之布化螺鈿劔泥比或行
行時給之劔劔部會是御襖行幸供奉は

節令行幸大明一不用之其介副の所用大明一
 行幸大明一草明大明一亦不用之其介副の所用大明一
 又凡鞞節大明一亦不用之其介副の所用大明一
 云又凡鞞節大明一亦不用之其介副の所用大明一

真袋大明一御皆金真袋大明一又御襖大明一行幸大明一

河竹之

一 直衣事

務亦元服日禁色事被宣下大明一雜袍事列大明一
 伴大明一仍不得勅免直衣大明一亦因尚家代之例也
 但永德二年四月讓位時大明一故殿大明一直衣勅免大明一

事大明一務政宣大明一亦大明一于大明一暇大明一儀大明一未大明一一大明一變大明一三大明一系大明一家大明一代大明一始大明一每大明一及大明一
 蒙勅件大明一之大明一委大明一細大明一事大明一見大明一故大明一殿大明一記大明一者大明一之大明一又大明一著大明一舊大明一帽大明一子大明一
 直衣大明一亦大明一院大明一事大明一蒙大明一免大明一許大明一而大明一進大明一退大明一而大明一進大明一代大明一忌大明一直衣大明一
 亦大明一院大明一不大明一及大明一勅大明一免大明一沙大明一汰大明一頗大明一不大明一可大明一也大明一諸大明一家大明一不大明一為大明一一大明一同大明一
 百大明一身大明一不大明一及大明一守大明一株大明一患大明一老大明一又大明一忌大明一直衣大明一系大明一入大明一一大明一又大明一社大明一奉大明一
 之大明一阿大明一不大明一可大明一忌大明一直衣大明一神大明一解大明一必大明一直衣大明一也大明一此大明一記大明一於大明一所大明一在大明一
 之大明一故大明一殿大明一亦大明一亦大明一也大明一

直衣大明一童大明一解大明一也大明一白大明一淨大明一織大明一物大明一也大明一直衣大明一之大明一美大明一衰大明一濃大明一茶大明一之大明一元大明一服大明一
 此大明一後大明一之大明一直衣大明一良大明一後大明一之大明一直衣大明一衰大明一平大明一稍大明一薄大明一矣大明一地大明一年大明一齡大明一只大明一年大明一
 所大明一京大明一次大明一為大明一也大明一此大明一後大明一之大明一直衣大明一良大明一後大明一之大明一直衣大明一衰大明一平大明一稍大明一薄大明一矣大明一地大明一年大明一齡大明一只大明一年大明一
 老者用大明一每大明一也大明一此大明一後大明一之大明一直衣大明一良大明一後大明一之大明一直衣大明一衰大明一平大明一稍大明一薄大明一矣大明一地大明一年大明一齡大明一只大明一年大明一

文永元六四筆
 云希院生草報

為天後指費
其用之大概
亦後之類也
其文獻之人
若其用之類
貴人等物及夙
夜近初甲田
其固指也并後
在指也其見後
鳥羽院印抄
凡袂釋ハ尋
常海文
後并固文

此物也
他代連綿
凡鳥祥
固文鳥祥ハ
幼年文之固文并
後鳥祥ヲ用
云云也

指晴ハ一字文案指費恒也云々
同時忌禁舊又例

宇治乃内長承三年春日奈上卿行時出京時忌禁織

物指費歸京日忌禁甲子辰又指費云々
十五歲後用也

甲文例曰乃内保延平院印奈山河宗十九忌為之減也

建曆二回世玉葉法性寺殿元永二年歲廿三始
著源美織也指費見玉林

紅式白下流時用云々

兼有為天指費下流麻衣年人用股白也但一貴也云

其式也其九ナラハ
貴式物指の末と組之各或之物指毎指白也

以氣組一物指云々
清黃指費ハ白也一物用云

下流麻衣の切と用又其也
下流麻衣の文は後白堂裏ハ

遠文ハ美濃打ニ其穀三美薄芳後一深之源氏物指也
其ハ直衣ハ切と常ノ用ハ其也云々
聽直衣人ハ

從直衣の切と用云々
立上ハ直衣の余ノを河

川常ノ用給ル也
易先進年ハ白平絹交ハ紙

ハ其也云々
下流麻衣ハ其也云々
白平絹ハ其也云々

藤繪御方草常ノ大物直衣也并御方位奉の御用

可依其例之六物言直衣始一從用御劔中見兼
之三年正月玉葉又長者後春日指衣冠也

皇朝給許方々例之由見寛吉二年二月日

御記

半靴門卒供事直衣舞馬の所用之

一布袴事

五古表園明御等布袴ハ之別子細也且只先の衣袴下

惟云

韃韋袍は着下籠指貫是と布袴少くは不用

事ハ之地先短之布袴乃阿ハ之支丸靴常許御常之

弘化文治三年十月の御記より又布袴は不常御

之有之天永正六叙位予今日在御中大臣之衆

と出御忘之予今日忌布袴御和足院殿

こふ山坐衣に下袷指貫とは忌より申之御氏物袴

之より御進事之勝宣院賜之衣有御家御侍御

貴之御衣忌出衣布袴密有願向予忌先未終

男不夜子御大時宜申其阿忌紅梅出衣

下袷指貫又前給叙景山年終より之布袴

用御叙之由治安二年五月廿六日園白籠馬

下官布袴忌細叙由見御宮石座記又春日

詣御前之官少御言布袴用許給細叙予緒之

布袴用許給古刀予緒事粗有准據例不可

為難者凡直衣忌下事度之儀小右記より

一狩衣直衣事 韃韋小直衣

爰三九家下云
清華ヲ云極テ
横園ノカヲ九
人ト云シ
お私立の内
御對面

人の之時小直衣
 三條帳さき
 正多しは花大略
 時正一の手
 糸の袴さき
 交り白糸
 袴物とふり
 一丸生又キハ
 糸織根ハ穀
 の如シモツリテ
 拜心

當家密相之後是之凡家の幕下之後是之又其ハ
 大略同様衣等事は通用に流又織也其下は糸織之堅
 又織也并糸織也其下は通用に流又織也其下は糸織之堅
 也他依年齢相斗之風流小直衣等法令止依之親也
 裏ハ平絹練生白ハ之之縫而天袖結ハウ次ハウ袴等
 諸イ
 流宿老ハ御衣ハ美濃袴打交又堅固細ク長絹小直衣
 一ハ白練より二ハ烏より三ハ糸より之定法袴衣
 袴費ハ下流ハ尋常事小直衣ハ下流より中流
 未物出衣等事ハ其下ハ之其下ハ三有之流ハ
 一層高即話記より云々

一 袴衣更

袴衣其之不定は年ハ其ハ紅袴而來此流又織也盛年ハ
 遠又堅十五束薄絹ハ袖結毛板積ハ人ハウ之ハ此組
 而本家糸の打交ハ其業白ハハ流又糸ハ薄黄等と
 之用ハ其下ハ一ハ白長ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ
 此若月トモ之表ハ向又角ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ
 綿是ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ

大惟暗時ハ可也衣五單ホ
 指費下袴ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ
 烏帽子當家ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ其下ハ

陽明家近
衛ノ家ツ云
是陽明門
前アリシ故
ト云

一 水子事

幼少くモ草箱生草箱又其ハヨクハ何カアリシ大納言
此何カハヨクハ陽明ノ家カ大官トシテ其建
後ハ長箱長箱衣衣長箱長箱用ク尤モ審ク

一 衛府具足事

徳殿中女将時ヨリ行幸儀奉ヒ云卿ニ位ニ位中
中納言中納言大將ノ所トシテ帝ヲ恭儀奉ル至大位
七次令指胡録不懸腰首雷鳴陳其所大位大將
七帝平胡録不懸腰三度座院入通相國承
述三年大位大將内行幸儀奉ヒ構別勅ト云

懸腰帝胡六有儀奉別後事之更至為儀例見
故殿日記云

冠行幸の時差懸腰

袍羽林の時ハ關腹ニ卿以後ハ健腹帝ヲ恭

引引差年差年の時ハ所儀儀也光光宿座人用ハ儀儀
作云隨年差ハ所非正矣只何ト用ハ加彼干文
為知也ト云

平胡録 平心螺 細胡録 草草裝束 行幸之日用之時

給輝細胡録ハ時給輝細胡録ノ由方通用又行幸時
帝ハ時給平胡録例帝行幸日ハ帝螺細

右の可也不の者妨之

皇朝縁 讓位部會等警固時衛府工卿等之但
右の孫非送使別當不虞皇治承五正三右大将
良道

紫水精若鷲羽之く心紙紙有紙卷之紙敷

平切海ふかき一矢中し古一物皇朝縁六七為

為様 同塞之書有

丸緒 覆芳終上達初以の遠而行業常御叙の阿し

丸緒之舊記若表常之あり同之五位次相必

緒之

一 鞍具足度

鞍傳

水精地 天文三春日詣
中納言中將

鏡地 赤銅

黄地 治承三朝親
三位中將

蔀繪

表敷 赤地錦

大滑 紫草縁
行幸四月之

御幸及春日詣未之時用之行幸日以下希強不
指江障指改案用馬同不指江障之中見

銀地 同時引馬

黒地 壽永二朝親
中將良経

龜地 大治五朝親
少將頼長

鉢鞍 野望用之

下鞍 水豹竹豹小豹
切付同事

江障 伏輪華族人懸之
或以黄縁組押之

玉葉葉

鞞鞞建署

兼安五朝觀
三位中將

辻結

小鞞建署

天永三春日詣中納言中將

小結

仁平四春日
上中納言

鏡鏡

舌長

半舌

刀皮赤

貫鞘

幼皮

纏鏡

手把

覆芳終

業終

樓終

兔繩

白二筋

兼折文

大治五朝觀
少中納言

萌木句折文

五徳治
承元年

十二
行幸

山次

元永三春日
中納言中將

業打濃

仁平三春日
中納言中將

腰帶

白由木搦

ユカラミイ
由木搦
ミイ

鞞鞞打鞞覆

鞞鞞將給

柄衣袋

薄物有備天永二春日詣中納言中將
萌木浮線後鞞覆

舍人拾脇中

スナカヒヲ移シ指長の右脇より取和出スナリ

或右子以物

或拾頭

頭イ
実后院

主人束帶時

自持鞞事

稀子

将襖事

乃、おびしき有り思ひ切れり、
又織物等も用故織襖と云ひ、
又或説く織襖
と号し、
号と云物長つて是後也

裏袋

以布中云裏袋付右牙二石隨人肥瘦或有牙

一石或有牙二石或有牙一牙二石間之云

釵色

承元氣四云一內記曰國白著飾釵代其勢螺鈿釵
必金銀伏輪紫檀地上唐草九摺具其鞞用瑠璃露
日之定旧物云
殊勝物

錯釵

三節會內宴御櫻行幸小玉御用之

錯釵代子內宴御前會之用云其裝束見承元四正峯殿御記以上

螺鈿長釵

此從化紫担
亦小摺具

行幸云以下云之節會日法東將

作用之云節會日既改人号代云代用之

及殿用治愚老
度之辨之

御堂御流元云之間帝螺鈿釵殿之去用將流之

槌螺鈿釵

將流螺鈿通相釵之他見峯殿御記又令與

之差之御之行幸云御用

將流螺鈿釵

通示行幸云御用之又有實之御用之

將流釵

号字塵釵御用之將流細釵云云

螺鈿御釵

兼有百
兼背毛板板

將流行幸時用之又春日

不遠而行幸云御用者大將小者之板云云

去例水長二春日行幸云知是院殿

云水二日中納云

元四日夕夕峯殿

元德日夕夕後芬院利華院殿

同年日吉行幸

將流釘釵

草帝

大將等直衣始御幸供奉直衣之時

發言固非常行幸亦時衛府云云下四五位直衣衣冠刺束草云以草緒用之非武官者不可用

帝之大御言直衣始用將流釵有例

平鞘鈕 細之出行時入平中令持人不帶之各良物 御幸時

或入門 平鞘鈕或号平鞘鈕或号毛後形或号

平鞘鈕之由我東山在月尾目抄可尋之

一 平鞘色之事

紫袴平緒 節令行幸淨質等之日用之又為平之人

已之通用之

籬号袴平緒 執政人用之

青袴平緒 五月宸勝講用之而正和三年二月二日

朝親行幸後園光院園白行時常沈地螺鈕瑠璃柄

有又巡方常青袴平緒

握袴平緒

抹袴平緒

絳地平緒

萌衣平緒

紫袴平緒

紅梅地平緒

當家上袴之故准后被之勝定院賜之相國是券

深紫系時用之嘉保二臨時宸三條殿

紫袴平緒

紅梅地平緒

萌衣平緒

紫袴平緒

紅梅地平緒

萌衣平緒

紫袴平緒

兼一 永元四八古春日行幸后之拍掌殿

當家上袴之故准后被之勝定院賜之相國是券

深紫系時用之嘉保二臨時宸三條殿

紫袴平緒

紅梅地平緒

萌衣平緒

紫袴平緒

紅梅地平緒

萌衣平緒

紫袴平緒

紅梅地平緒

純色之花田之諒圖之時直衣指貫皆用之

紫袴平緒

紅梅地平緒

萌衣平緒

紫袴平緒

紅梅地平緒

白地平法 小忌ふか不用之 小忌字法同事
一 玉帶色之及

無文巡方帶 天子悉帛御服の四用給化人不用之

後堀川院門小帶青家相傳之 永亨以後傷取之後
遂不放進下給矣之也 後曰此傳之 斗念之也

有文巡方帶 臨文同之 節會行幸小用螺鈿之也

時必用之又洋質之也

之及九鞠帶 之及巡方九鞠帶 用之非常會

行幸之時有使之

無文九鞠帶 尋常所用之時給之方より尋常之馬

服帶四位人尋常用之 他保元之内宮日圓也法性寺殿

赤大袍馬服帶又安元之四月侍從良通等服用小

馬服帶五位又應德三正一通房行時非茶用馬服帶議六年

犀角巡方帶 節會行幸四位右位用之又女官洋質未

用之

犀角九鞠帶 五位人尋常用之

白石帶 大外託用之

金青玉帶 康曆二七年八相撲召合殿上人用巡方

帶而長忠用金青玉之匡房託部之

瑠璃帶 治承四十四九信範藏入權佐申云御即位

日之... 玉印... 不惟先院... 處如...
市不... 亦... 亦... 亦...
付... 長光... 亦... 亦... 亦... 亦...

班犀帶

露通天
紫通天

玉卿諒圖未出服法用之

烏犀帶

亦位用之

一 車事

貞信云... 元永二年三月七日中宮御料自院借...
稱破損... 爰上... 備信... 乘... 亦...
... 一家... 皇后... 乘... 車... 而... 化... 家... 之... 意...

后其料備法... 師時

損御毛

細... 末... 門... 出... 之... 時... 意...

赤色簾

錦綠江記云... 批... 抽... 後...
... 系... 絨... 也... 前... 後... 芳... 織... 也...

... 獲... 芳... 未... 濃... 下... 簾... 纒... 綉... 綉... 帖...

或時... 用... 青... 簾... 草... 綠...

... 青... 未... 濃... 下... 簾... 金... 銅... 金... 物... 摺...

損御扇指

今... 候... 又... 因... 以... 時... 之... 意...

御車內... 黑... 深... 物... 見...

... 亦... 未... 陰... 未... 物... 見... 外... 上... 建... 子... 物... 見...

緣... 黑... 深... 物... 見...

... 下... 損... 御... 毛... 袖... 橫... 緣... 上... 唐... 草...

袖下

曰... 海... 天... 化...
... 押... 之... 意...

袖內... 橫... 緣... 下... 黑... 深...

左... 下... 化...
... 押... 之... 意... 袖

內橫緣

各... 類... 針... 釘...
... 如... 獲... 御... 之... 意...

簾

如... 獲... 御... 之... 意...
... 滿... 涿... 涿... 涿...
... 押... 之... 意...

懸... 諸... 八... 各... 長... 各...
... 二... 尺... 折... 句...

下簾

曰... 損... 御...
... 有... 緒...

扇... 紙... 細... 券... 布

左... 全... 也... 例...

必摺如常 班全 霞網緣帖 未是 用 開个 葉全

唐庇 晴時召之

上萐 摺御毛 肩天腰總曰立板外 綠色 同 押後畫唐

袖外 綠色 物見 入介以畫形同 簾 簾字編系常七

小簾 收 簾字編係同四端 下張 如天張 上廟 結 消

得 路足八角有 下簾 簾字係綠以色一絲縫唐花唐鳥筒費

鞞 建者有絲 毼 打交後在絲志 打金物 九文

袖 全 摺透之立板外打金物有風流衣玉

廟 号尼眉以直衣之佩之青永二字流入小魚衣系原車

網代 上白袖中甲 簾 上青綠藍草 小簾 表青似綿

物見 介以畫形同 立板 同押後給 金物 教物

教物 ノソキヲカニ 摺青未濃下簾 或有略之時

本部 是於網代中之以直衣

網代 上白神白網代以深畫牡丹 物見立板內 以事入略

同廟 御車金物 不懸 御下簾

網代 藝時召之下簾尋常

網代 上白袖加半葉 簾 如常

摺改之 網代 如鳥身衣隨身所用之其後 籠
在東後家密之時或半畫遠之摺柳八葉亦不被

晴時上甚月 亦府結件總或用紫系濃等用白絲其上

立分率爲庶中蘇細代等之建曆元年八月十二日
玉葉柳平細代率日者不用之文只不意大將之時率文
也件率文之三色釋依不審尋同或老故入道改殿印之處
申云文治二年入道殿柳拾録初之沙法及因有殿
令用此文給下初此文中八葉抄中後建之二年改
殿波柳一條入道殿于時大納言大納言文治二年又日
被用此文ノ不有之書事之爲後代記之繪
初又續入之建保四年二月十三日日卯死未時針衣内
細代率依殿細代中將云雅率用之懸下意用殿上
人若八葉率之時先例此亦實之私案云唐底如肩

凡家六清華
ヲ云石家六六
改六任位スル例
十二

唐抹 執柄者日詣并柳櫻行幸案之又似大政大臣
須用之昔私家多之被擯後自中古申出院山率
平爾之擯柳底有底人同之時案之世率如足院殿長承
以始多廻意巧今送給眉八率眉角先之凡家六政大臣
時或用之眉如唐棟故是之号尼眉細代底眉
有底 号尼眉有底魏改有底大政大臣若村出衣之時用之
小直衣八葉有之案用又右例中部率細代物是固之物也
八葉有 大納言之時案之拾録時用之抄家大臣以不抄
印合也之直衣非時之時用之細代率無相眉如常八葉
自雲裳時至大長等抄圖時用之各有免別物見不用之無筆

時家之船大船號違物見抄家古信分等行會
之書此八葉車大略同細代者矣

一 隨身人教事 行防府長小報也

自羽林至中納言約衛府長一人小治身四人或二人
大納言同衛府長一人小報色中人約言兼大將時者
長一人 以右取 進衛五人 以上二人
大將大將時府一人書長一人進東二人 以上二人
大將辭大將後東府長一人
大將兵仗時左右書長各一人以右進衛各三人合八人
同白及心所出各一人以右書長一人以右進東一人合七人

世宗洋貨之日者具一負 將監將曹府生有等 可見日記

一 同裝束事

神寶日官人束帶垂胡錄書長下褐衣 白狩衣

垂腰巾 狩胡錄 兼之二年七月 玉葉大細言神寶書長也

元三日 七日又日 官人束帶垂胡錄書長 右二監將狩書

胡錄進衛子也狩狩 其日以下法部令白須 讓位部會白

日時用前令裝束他立太子但大臣官人若獨衣

行幸日官人以獨衣深分狩狩 右行景 狩胡錄 右二監 黃肚中讓位

即各別時劍璽渡御用行幸壯衣束之天水二正三朝

親行幸大殿心院等行幸供奉官人束帶書長以下

保介袴

行幸日

一負束帶 倍奉

友人下袴衣袴袴石為小 築

白襖袴或保介袴 元三中

為志

官人下袴衣白襖袴長袴袴石為小

近來白襖袴

一 衛府長事 号雜色長

大納言下 平礼布衣

大臣不兼大将部會日 束帶 兼胡麻号雜色

叙位除自日袴衣冠 束帶 平礼布衣

一 小隨身事 中納言為下 中納言官同具

行幸日袴衣 袴袴石為小 袴袴兼腰中或保介袴

永安五心胡親行幸三位中將 袴袴兼袴袴 束帶 西頭

行幸二位中將 袴袴兼袴袴

部會日 袴衣 兼胡麻

尋常 袴衣 或总方色見治承二所記 兼胡麻 兼腰中

一 小雜文事 大納言同具

布衣

以房通振之依有抱袖系之

一 進禁裏似洞書状并後文事 尚衣司傳

晴礼

一事委細可恭任言之由之令渡養給
其欲恒誠恐有自給之或某誠恐有自給之

月日 官姓某上

致年友 可完官能也

仙洞 日野中納言久 可完物給也

表書同前

官姓某上

以三收表書如常去之三收為札紙其上加札紙一收

以三收為立紙初度方之以氏散字之紙

同信文様

作旨號以奉作年

是下向也但信文之
張字亦與而也

内之畧候申之事由有御免之分

一事之由或此言方今渡披寫給或令入於

月日

御表願亦殿

與式内之略之畧候不表書之よりよ也

仙洞日野中納言久 日分

以三收之以三收為立紙如常或紙以三收為立紙

引墨如女居狀近代後善光園亦為不立紙也

日御信文様

作旨號以七年 或畏承了

自余日分

家女房上仕礼

———
———
———
———

表書 極書 白尚内約 白尚内約 別尚 別尚

白尚 白尚 二枚書 二枚書 三枚書 三枚書 上下と拾ふ

川書 川書

同法又

———
———
———
———

白尚 白尚 表書 極書 白尚内約 白尚内約

別尚 別尚 白尚 白尚 二枚書 二枚書 三枚書 三枚書

松書礼節

賞家不為極書 自他不辨松書礼書之儀

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

松書礼節 松書礼節 松書礼節

和通康永二年时分兼宣中纳言高成心进故殿
善州弘光礼未忘理海之身之康成院入通令多
及治立平後念之也立言藏之紙卷厚之重因見故殿
町記其所分之家大納言以下一人之兼侍入之人之
及表之通之身之身中納言高成心进故殿
进退應永三年二月以通令守通相国进故殿
以治立平後念之也立言藏之紙卷厚之重因見故殿
善州弘光礼未忘理海之身之康成院入通令多
及治立平後念之也立言藏之紙卷厚之重因見故殿
町記其所分之家大納言以下一人之兼侍入之人之
及表之通之身之身中納言高成心进故殿
进退應永三年二月以通令守通相国进故殿
以治立平後念之也立言藏之紙卷厚之重因見故殿

イ中首書
又或説云大僧正
一准大臣正僧正
一准大中納言權
僧正一准奉議

南都五山派出門寺門之門梁之門下者有
清華僧正願心堂后之礼智方部为同僧正多生其
若夫其位之中國相国之亦及按家僧正准大僧
清華僧正准大納言之其上一旦之今新中非云俄
之之同一目能用之仍自俗家善快亦看臨時之殿
分之次又近代有准后僧正古来准后礼節之之云
之我九坂抄改而改按准后之云者一服礼之由被申
之也何進代去如示改未大略其分之他准后之依人
也小島之納言親房守右南朝准后之進日妙法院
准后之程性德之守之守智光為善廣院賜相

國之行事或收華族之弘家別有之收亦之傳者
宜之對政之自化各之而收子之屬老庭訓台
以之書是之抄國時也准后信正也之海名重信
承信正也之判但依人志清華以信正也之判大信時
也准后信正也之判但依人志清華以信正也之判大信時
華下信正也之判大納信正也准后信正也之判大信時
承信正也之判大納信正也准后信正也之判大信時
正信之判

一 當家相傳十二合又書事

大宰 即信灌頂即一明大尊會神陪一腰王抄抄

小宰 恒例臨時必事抄牙部會物袋網之津邊意

抄殿之節抄牙部會物袋網之津邊意
抄牙一乞不秘書也

大司室 節會抄之松殿口傳物治音因明寺殿二節
即抄亦也

小司室 官卷抄之荒卷和卷末尾行膝行作法
進退口傳在實抄之他近代中絶之之之

小司符 叙位抄業抄之舊卷牙新抄未加人

小司冠 女叙位抄業抄之法信殿以外物童子

物之可觀見矣

小司儀 除自抄之六間成文抄法華 魚秘抄寫五 納之

大宗師 又除自抄之記誦抄每 魚秘抄中 納之

小宗師 又除自抄之直序叙經 淨自抄亦 納之

今之各大司儀 大司者 應仁亂於毘沙門谷燒失

平世中一合 去自以家為二系家門被借失平

一 當家相傳正記事

玉葉谷 月持祥園自筆門記抄寫 二系家相傳寫

印号玉海殿門記一合 後東抄抄自筆門記

玉葉七合 光明寺祥園自筆記

以上三代記真寺田明寺殿為三條嫡流而相傳

繪考文

山筆六合 田明寺殿門記印人多被寺之加右為 口衆一

愚曆六合 後光明寺抄改門記

玉英一合 後芬陀利華院園白門記

荒曆六合 改殿門記

此外接心院殿芬利華院殿門記并一合 上之書

一系文庫紛失平

一 家門未子入室門跡等事

常住院 世院師迹當時^院聖護^院後^院與^院良^院度^院良^院

除^院後^院准^院后^院置^院又^院再^院書^院礼^院亦^院明^院鏡^院又^院向^院後^院之^院其^院若^院用^院

去^院入室^院不^院有^院緣^院儀^院去^院乱^院

大空院尊位 空常寺 旧院物收息 慈信 又慈三時院 亦明師教息 兩僧正置又

孝寬 后寺 後一普院園白息 孝周 後報寺院 園白息 僧宗書州寺

當時寺為僧正為門主令^院立^院之^院夜^院異^院律^院又^院經^院寬^院

大僧正^院家^院門^院如^院泉^院水^院更^院及^院子^院如^院九^院乘^院若^院云^院入室^院是^院

又^院夜^院經^院後^院今^院僧^院正^院局^院政^院竟^院為^院二^院乘^院大^院周^院息^院以^院室^院所^院

殿^院于^院時^院前^院之^院被^院入室^院非^院分^院之^院像^院之^院僧^院心^院局^院

某子細^院又被^院嘗^院之^院悟^院之^院人^院也

妙音院 世師迹當時^院青^院蓮^院院^院後^院之^院知^院之^院不^院離^院世^院

家^院門^院之^院由^院寺^院乃^院親^院之^院書^院凡^院同^院乃^院月^院僧^院正^院從^院狀^院以^院之^院唐^院元^院

院^院宣^院下^院以^院鏡^院之^院云^院若^院子^院細^院之^院是^院若^院若^院申^院院^院

門^院之^院中^院云^院乃^院之^院邊^院入^院室^院定^院不^院之^院緣^院儀^院去^院乱^院

隨心院 代^院之^院南^院家^院中^院措^院不^院及^院子^院如^院加^院門^院之^院祇^院嚴^院准^院

后^院今^院門^院之^院嚴^院實^院僧^院正^院為^院若^院息^院之^院云^院若^院若^院申^院院^院

曼珠院 寺^院行^院中^院 故^院門^院之^院良^院行^院准^院后^院今^院門^院之^院良^院德^院大^院

信^院三^院代^院已^院之^院相^院續^院之^院有^院之^院若^院若^院何^院後^院之^院入^院室^院之^院

寶空院 寺^院山^院堂^院 故^院門^院之^院相^院照^院相^院澄^院早^院世^院之^院僧^院心^院今^院

在漢子河曰之

梅澤是心院

八番寫經以卷之楷山史所後善光田殿

与及准后有初之好之狀諸之候仍今院之志之息

之文室之志之系家者能立以之寺外之志廣國

市松左上院之新世三度

抄河國小戸西底并廣國抄此

各段隆別上与相國寺用山塔崇善院之契約

魂城禪意院

五福寺之福宗以其尼寺五山之一為代

所為其塔取相斗中守者之志仁之教寺家之感

之寺領之國懷國為取去方以山名被受人 穡磨國不

是之志出之山亂世之後有各之寺實之任守代一馬老婦 以其尼曰息

相續之寺院之寺領之者見中中一之入室

一 水門後領寺院事

報恩院 在法性寺月輪殿山草創也後高祖

當時不承其志以念佛信僧冊中一〇九条 每夜以補

仁定作寺之供事之丹波國安念老内上人分六十者

又新承三系 見奉殿山置又我冊 郭中守護被

後人被監妨政心 之志之寺領也

光明峯寺

在四條門合 奉殿山終焉之代十三寺塔

細御達有月之應仁之乱寺家排比燈矣寺領小

地云為富山古馬坊所押領依是供僧單一人

不為遊行語乃改其來之

東福寺 志曰山 淨嚴山肇創見心置又亦當何禪刹

五山一也寺亦不燒亡應仁以年寺修未

隨緣離山佛事寺未令退轉文明十一年以

世之聊以神謚行書未武家被定作有關世後

拜之長老入院兩山教書自武家而依

代之芳濁家門所教書同列寺之性代公乃

聖書至是老之代紅武家以教書作人之書之加

官判也以後書每及酒米料之是進之不矣

四知又每年誦生日維那僧持身行禱以銘

仍書此名書之

善門寺 東福寺門徒十刹之文行持出教書未日切

二十四寺院中以九家有相禱事後各池梨花院在

而應永七年六月百麻堂院大相圍籠一門長後三條

可致者以也被出書州自書寺未之七年化坊又

應永廿六年廣橋儀同三司以禱定院立下寺禱

下後以不之者相送之也奉書之也寺備禱

後者之

成恩寺

寺名而無寺

家門知行分之又有不寺進心

行持之奇山和志門徒中選意用定之也

同明寺 五山崎 後一條殿山山元之寺之改也後傳

祿亂世之後寺亦^顯朝倒有為之實也

寶積寺 号寶壽 院門後院也而多其校之寺也

一 家原 并敷地等之事

山城國 小墾原 當元祖加家領安堵又院家進光明

寺寺道一向為寺家之村不成其家之傳也

惟我應仁之亂寺家顛倒寺傍一人不為述已可為

國而之寺又明九年十月為寺為寺禮改宗諸則

二 瑞南之寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

日早此中山寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

同國之世元 為昔日社神供料不辰市檀額代改奉

行者之寺每年六十人吏役為院門之得分在年家

事於其寺無所法之加嚴密之寺寺寺寺寺寺寺

知以之時寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

持津國福寺元 領家藏 總倉寺寺寺寺寺寺寺

代寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

當寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

為寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

并為將軍下知之州也

土佐國情多鄙 有社村 當時雖有知行號者名無

實他應仁初世以年而國而上下而上下之其地

濁命者

備後國 備後 小名被後人六田追考其官其後年號

中_之每年貢三千石之是米一山名者收米之為

國中納云給恩_之比知_之為時依_之同_之錯_之未_之也

和泉國大泉_之見元弘三年論者亦_之知行

無_之遠_之貢_之細川阿房_之被_之後人_之者_之是_之三千_之又

是_之信_之比_之之_之山_之年_之被_之後_之人_之者_之是_之三千_之又

越前國是羽門尉自_之鎌倉古_之家_之相_之傳_之子_之德_之分_之也

中以常盤井宮知行_之也_之其_之得_之者_之也_之應_之仁_之廿_之三年

去_之月_之勝_之定_之院_之躬_之相_之也_之殿_之門_之尉_之自_之弟_之收_之也_之近_之可_之

乃_之水_之領_之之_之也_之被_之載_之又_之也_之未_之來_之也_之其_之和_之邊_之代_之友_之朝

食_之并_之作_之入_之進_之位_之之_之每_之年_之三_之貢_之四_之石_之餘_之貫_之致_之也_之應_之仁_之初

也_之其_之年_之胡_之念_之祥_之正_之室_之尉_之而_之押_之也_之之_之其_之終_之夜_之中_之之_之制

納_之行_之後_之名_之曰_之朋_之倉_之法_之也_之其_之年_之貢_之千_之二百_之也_之為_之家_之僕_之給_之也_之也

同_之安_之長_之保_之 是_之羽_之門_之尉_之別_之領_之也安_之若_之彼_之即_之亮_之位_之之_之每_之年_之三_之貢_之三_之千

石_之是_之也_之法_之之_之其_之後_之下_之直_之代_之官_之也_之其_之年_之貢_之千_之貫_之

并_之得_之分_之之_之應_之仁_之初_之年_之胡_之念_之祥_之正_之室_之尉_之而_之押_之也_之

清江名 安后别烟卷 法四千言之為家僕給恩之此應

仁以耳又濕想底押款之

况田名日 光卷守寄遊之心法四千之五月同

同國東郡元代官初念一族解東領申之年首七年

一 足應仁心耳洋正集門耐押款之

一條室所教比 花所身應仁之亂燒失之室所西日

野宿亦同時燒失了千度日申身能新送之家

門東及再身亦之此行

一條口界所比世中少川西有等遊提程守之化應

仁後甲山人但言新行之文的十年以耳離有民家

下知孝之人本不地不劫給慶庵教比不有標申之事

又之不為居

武者小路室可比蓋殿法之近年之居之實之家班人

押領契約比之事

尾張國他主保 普唐院賜相國初不究給之四脚

首月府家領等如元申賜之時 留山之後送

入魂家門近守日野

攝津國大日保云又職每責得田留普唐院時因

我紙不究行之儀之常用書身池田縣治事

中少分如川村友 給恩津之

尾張高田庄 家門由北也 昌山海平強門時

對家門了以文依有要中常事尾列唐海守續

望古白公文職年高田庄之書得之仁乃下令
得如之改訂詔三改新法白吉志知行
道去不他子細考也

天明二年卯月上旬為公好首領級業
亦約買之 不五團外深三石櫃底莫意
雜 後成恩身殿
沙浜御刺 七子島

朱テ云 斯一冊 紙數九枚 故禱閣殿下河自筆遺誠書也一字各
當千金當家重寶何物過之哉深秘送底敢莫忽之

故殿
岡白御刺

一 平朝平書事

日本記

續日本記

日本後記

續日本後記

文德實錄

三代實錄

新國史

平朝國史

令

三十卷 敬嚴受吉田神主下部兼郡說給自宗以來當家相傳之自神代至持統天皇一不令人親之撰
四十卷 自天武天皇元年 至延曆十一年
菅師真撰

三十卷 自天武天皇元年 至天長十年
良房撰
二十卷 我江の天武一代事
良房撰

十卷 自天武二年 至和名二年八月
良房撰
十卷 自天武二年 至和名二年八月
良房撰

續日本紀以下別記
和名二年八月

十卷 自天武二年 至和名二年八月
良房撰

律格式

西宮抄

北山抄

江成抄

十卷 吾國刑書

弘仁 貞觀 延喜 三代 撰之 律例處分

二十卷 延喜 而官式之世分儀式十卷

和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

西宮抄 北山抄 江成抄 律例處分
和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

和名 良房 言明撰之 恒例律例之事儀式

帝王略論五卷

賴業將書之

本朝世記

依西臣所作
寬平代國史一覽

一 可竟悟案

隨下之書

如房神拜兩院每拜乃名四度礼之

取帶拜時凡人古手持之上乃云

上堂乃手持

之上下左右心乃心之儀也

兩院每拜兩院之間乃云云

揖

由氣之儀乃云云

日吉神事 不忘山信忘他信 春日神事 不忘常以

法如忘自解信 亦云雖云其記古事不可如此

月障如房六月後解之繩擡大麻 云將於菅貫十

之新之以衣雲伏之 之席之玉葉云下觸釋阿六月後

仰禮也自解介
信之云云例

陰陽師校時梅高云尔之時解之繩擡人形

陰陽家系漢朝事 仍不忘觸釋後起我問仍忘釋

公家以新 卷山身云云 四角鬼氣系木都狀幼之阿擡及

牛入門律字也

獨探人本縁射而不狩 魚子本縁射序尾云狩者淨

之時法子自云狩 每日念誦唱名 禱淨之業

自云不狩 每日念誦一光淨之業云云

一家正月戴餅及五果 云云 沙法云云

主上阿照云 澄照如房之阿男 澄照例之

文治二年十月廿五日
三位中納言藤原實成

身日勤如房陪膳給肉有日可或勤文法
二年三月門當國陪膳肉有日勤或法

父為亡息進苦事

文治元年二月十日內府用國說子
月終廢彼修之有門說又

奉幣音字聲字而社不殿之侍獻幣拜通後直授社司之例

異姓音字聲字而幣不拜中於奉以陪膳公不撰姓子之見

文治五年門記

布施給大襪而不加異物被也時加命施異也他必

子無法之

直衣始帶銀劔之以殿之無揖或揖黃首於私衣不

勳雜役四次每中獻水當賜福亦中黃首勳之

出朝科有說之而略之他衣軍亦終之也

襄泖簾事先躐取門從簾中央二卷中立揚下

張之也候取也

冠直衣行而靈將持念珠之後而之又竊喝之與云

大文治二年未

役日私不用之中有設日而十九日

賜馬而淨自中門切著後洗拾物懷中取門下

上于給或下多德見至京白而不方一拜或身並有上下下

或不而也

取祿而之而如女裝束及肩而之以物拍手拍前行

及手拍加之也而外再拜

神教中遺二親之日當以堂不親非分食中奉所

堂只編例以文法二記主臨時

神明門將不入堂中田侍所司在殿

八情神中子為精進也

以神宮法樂雜佛位志經不禮建久五年三月吉

多云奉妙樂字之靈護院再十二之門塔各別之

拜孫神於地神雜靈以肩出胡飯酒掛七角也足

乃中取捨之也

初設神樂中子之靈字之晴以遊不將之安元二親親

行幸實家以神樂師長以親之平

較服日教之間不堂所詳

常言前之日不郭臨河行幸賞改一級奉慶之時再詳

和智節會叙別出有官節臨河經之知常言前子三序又

門堂餘流自發日用螺細飯有文章宗院一族常而細飯

無文章非流之入多用之文元大親以為房五取二年二月

法有文章於殿下之也見而檢記

幼雅者惟之濃之裝束也而其事

見至葉法承三十月

錫探等之時私堂所定之同東行有之先例之

院門幸日改身而改奉入退也而發之山幸時不察之

院卿也身見左史右史之

按家臣相下將服之時深服職事作上卿之下知事紀

成官者物等也按國者或玉均官者出仕先親及後之前

官之時不及深服官下之時後不中之時也

級物事寺院之祀必撤之他御祭寺信養長准以錄會

時雖幸白不撤之也世官下之時撤之也又如保京御

臺雖不撤以錄會臨御常級物是依之為始終也右亦又

系本院信奉之時依別物云御用禮細叙隱又常有之例

考之 五福寺大社那春堂之時於此門外
下事之時必解衣定例

非敬園之阿近尚物詳 卷每 編綴履臺草立時之信也其亦節

會依立中陳武元曆二年賢不自草津入後之時又此

弘長三年八月内妙守殿行時希還任以去長為津波被推補

儀之被友意自有作職事向里身信物等不儲物

史在麥謙邊之執元亨年後照念院去相還任之時

曰身口以物使被作中事也

正元冷泉相國自示言長轉任長長之時兼日有古作也

阿儲物使座如如古及古長意官有之明應二年十二月

康院院准后還任長長之時其比法無念之也

内辨事弓案之事

小古別記云園能院讓位於華山帝之時古物謝林為因

補家司供部儀之事事一未如也與

石口契事

此口口柄古果付^書之國家殊^書之如天征記^書雖
燒損形質存仍或^書或造如^書時更^書之^書
概^書是^書貴^書之^書之^書及^書法^書所^書之^書
內以^書修^書補^書之^書魚^書有^書七^書而^書後^書之^書之^書無^書被^書和^書納^書之^書之^書韓^書樞^書中
行^書軍^書以^書公^書近^書將^書監^書持^書儀^書是^書之^書以^書納^書內^書傳^書自^書中^書構^書樞^書
以^書納^書之^書樞^書稱^書大^書口^書樞^書古^書典^書不^書載^書已^書以^書分^書明^書於^書其^書有^書三^書合^書

節口事

節口古新劍^書其^書中^書吳^書劍^書有^書二^書柄^書而^書附^書固^書而^書首^書與^書之^書

日月護身劍破敵將軍劍志約辛樞一合行幸之時相

副賢不所被奉還之靈劍新劍合世四柄之中見云此

以上建武四年至英見乃於并節口建武度紛失被新送

社祭事

十廿沐浴明後日因之某吉田社之祭

應永三四十七甲辰因之祭法吉田社今年未奉之祭衣冠

下結祭八葉草懸下中約行長因本諸宗中津基樞

同在津後中約滿親羽長葉又奉危儀諸古更則考

氣骨布衣之葉教羽長衣冠儀社以兼村白系中於

神前奉幣中約取幣^書中^書之^書兩^書段^書再^書奉^書

教進奉受之幣以予物志望意教物幣再奉中

祝子又在序於幣於兼村之...
階次兼教之...
心中之幣授之...
言...
神...
依重喪無六月後事
玉葉壽永元押余依市喪無六月後他世居惟君亦在之
出為少為等方同有之

春日門正將為金剛般若經事

沿承立國二千六今日實業得來語云故氣後傳劫云春日
門社正將真實者金剛般若經又有不見之...
諸余亦見夢想正受之...
余多年之...
照信云其...
經於信助阿圖...

小兒戴餅事

玉葉承安余向園白身...
為之教餅...
康和法性寺殿門戴之阿月大長雅實

三ノ下 手筈蓋 薛松折枝如衣者 敷布薄様二重並之板
 大根円入之件餅須用炊切之与用尋常餅
 三ノ目料被大根木入抄櫃敷之次亦改裝束目見園
 如恒少房同之

讀様之事

面業 天子冠礼
 火地 取作輪

近仗行酒 引場代

留門前 建新仕女

後取 還昇

空頂黒憤 天子冠礼 最花
 返輪 已上行者 親五代 即位

王大夫 側記

集情送么 除服 水取

任請

任例

非成業

成業

皇殿上名簿載姓名叙任任官者之服之後子之近代
 皇御時叙任任官之謂事之惟親自叙稱号者可用
 童名死二身中之他皇殿各簿之書男名之上依事可
 用名号之

兵出皇祖 不及書高 皇祖妣曰 祖妣 皇考 皇妣 先帝

天子 天皇 白帝 陛下 至尊 指天子 太上天皇
天皇諡 天皇太后 皇太后 皇太妃 皇太后 皇太后 皇后

嗣字 太社 陵号 乘輿車駕 詔書 勅旨 勅使

明詔 聖化 天恩 慈旨

中宮 門 丹 鳳 閣 庭 胡 庭 東 宮 皇 子 殿下

凡詔言及字用之者非括視者皆不取

名目抄

夫於我朝稱名目多不當音訓又相交清濁故不可傳輒不

之學口傳而字必失清自古至今之說推這分深思非

無一就將相公不悉量之記俗皆以為悉量者真書家之所要非塵之常可用之而已難而

儒教兩道真俗二門上下述義男女文語非悉量者豈通其理非予如窮竟之成詠歌雖未必亦宮高皆百自所備音律俗書之合悉量之理又如刺多習者亦之若者不亦之身寧以不亦謂不用字大禎愚之至

或有連色之相呼或有音相近故雖不當韻色音味尤深矣

切韻以為肝心之理誠足可謂不知道之術計誰許之由後世不章之根早永音義以失各自之法亦要當來自少思之

表不誤矣 遂註淺近之事端漫誠信之 一畏極以意深者

乎但和未葉及仍雲繞當世所學之在字獨失隨為不

傳祖之知親隔其訓惜我蓋悔先非乎抑依声且其用自
去以概括能得以此可只誦不口神遍雖字其說莫
易言矣如周化卿之語矣余同暇之餘只寸志之持臆不携
一軸之文薄故不及九牛之一毛后生之君子必改正宜補闕焉

恒例諸事一篇 年神中仙事

小朝拜 後世小字ヲ小ト可清
コトヲ悲ノ註アリ

平見字年行及仍略之

回臨時篇

讓位 又遜位 有節會

受禪 各別依有讓位 者則有此稱矣

踐祚 不讓位之稱 有此号也

即位

御禊 有行幸河原 是太尊會也

大尊會 以上之号之章事

御書如

御元服

御著袴

入内

行事

行啓 謂春宮皇太子

脱履御幸 晴門一變 小陰月 或号陰月

仗議 有之陣

臨時叙位

直物

仗議 有之陣

評定 於御和

食議 於殿上

召作 此号一旦詔中行事之味在作法則在長 物仕兼官多謂之在任在長節會在

皇后節會

任大臣節會 作諸司叙位除自事一大 長於里亭或陳后一西局

遺詔奏

遺令奏

固圉 有天下古出之事味固三固會及鈴鹿山 不破河又有固我右八賀茂祭恒例

同國 國固有四殺 同儀也

薨奏 大長

燒亡奏 延尉列奏小内 表自藏人奏

流罪 有官下先道 劫文流刑派

内亮 人死所造流中流近流 大路長國有以子

唐朝

唐粉

内亮

改元

恩詔

條事之

拜殿

子座

物言表儀退し度有官位と申共長而儀し度有官位仕右多職有長
礼位物考官上席上余舞儀し度逆不荒儀以宜又喜別下之事

同心

高世の人云ラ
借今云故注之

流例

今案レレヨ云
祝多ク免

答拜

大禮

楚下服

鮮く衣

葛折

御幸儀
多折標

簡次

能冠

西のたて

管圍

西のたて

驛家

一貞

西のたて

任請

西のたて

女紙礼

石表文
有斗事

勸盃

西のたて

先取

馬

出居

一変作

任例

西のたて

穩座

西のたて

高園會

一変作

虎付

西のたて

宴座

西のたて

虎所

西のたて

膝行

西のたて

誦經

西のたて

成業

西のたて

非成業

西のたて

七声

七音 響 響羽 終 高ノ
七音ウ加ナル高羽常用

八音

金石系竹
包土草木

禁中祈

南殿

兼震殿

御松物祈

定云是所節當日此、假、立門屏凡
及御椅子所着御靴

賢聖澤子

西のたて

龜書

西のたて

龍高

上西宮立
門後戸

西階打廊

西のたて

門殿

西のたて

夜門殿

捲灯

二間

付親音夜居信文在申之寺
長妻来寺長者加持也

臺盤祈

西のたて

晝御座

西のたて

朝于殿

西のたて

鹿

西のたて

鬼面

西のたて

妙屋

西のたて

石火壇

西のたて

孫廟

西のたて

鳴板

西のたて

殿上

西のたて

上戸

下戸

持間

小夜敷

三神仙門中

沓脱

小度

侍

定津保挂

殿舎中

中室

賢所

春興殿平造
又内侍所

小安殿

大安殿

鳥書司

假在間

去外記廳

南所

假在間

貞記廳

南所

小屋

馳道

議所

人辨篇

國母

母后

女院

常音見
各目時引

女御

更衣

妃

嬪

尚侍

典侍

常侍

命婦

女藏人

采女

女中
花嫁名
依勤膳

女官

女中
惣名

刀自

得選

水取

主殿司

主殿寮女官類

園司

女孺

掃子寮女官

尚樂

元三卿兼命婦
一人トス

藥童子

内時掌門兼
用未嫁
去年齢衣色不立幼女

舞妓

舞姫

兼監子

三子孫兼
代日名定

半物

啓降

啓將

法皇

上皇

本院

中院

新親院

執事 別當 或大別當云略

云(キ)連上人

判官 五位

廳官 六位

上出面 諸方吏

下北面 五六位寄
語代侍

御隨身 上臈人

乃右の昔乃右友人乃右友
長乃右を兼奉之定其位候

執權 云云院司
補之

祈司 下出の中
接代に事補之

門前別當 西守や補
事物之補之

樂主

舎人

后厨文殿 御世に後
移記係下候

厨圖

後院

御幸

臨幸

院宣

布衣始 合其門有
合其門有帽子

北面始 始を致在
後事云云

行啓 昔之及
御出

令旨 日御女院
又日御女院

雜物篇

二色襪代 承足 御時立
御侍等

壁代

置物机

大床門屏風

通障子 或トナリ

小基盤 西面把

草敷 陪膳米
草座

獨涼子 ヒトリ
涼子 三位
衣敷

簀子敷床子 号長床
三位三本

臺繕毯代 敷云
マカシ

飯位 ニト云
ハシ

標蘆幣

杖 百黑
白依 又相努

文夾

侍子 初以云
着座の時候

厚四座

煙網

西向

縁端

藁端

高麗 字音リ
云云 又云云

草蓆 廿合
云云 糸綴云云

玄土 比色

鈴鹿 和琴

鬼蓆

昆明池障子

長海障子

院司 云云
御一四位一
大別當

年頭 云云殿上人
依云云 作云云
頭字云云

吉代 二能
補之

鳥形障子

衣服篇

裳或先懸

玉冠 礼服云御甘組法

冕流 天子十二一諸儀
已下裁其枝

氏礼冠

巾子 放巾子元服時
用之

帛衣 天子律子用之

黃犢涿

礼服 大袖是之

小袖 非尋常之衣
大袖小袖一類也

裳

綵

玉佩

肩流 カタクキ

已上礼服具

小志

又号音摺

日蔭糸

赤紐

心葉

甘冠纏日蔭糸

佐袍

又号表衣深衣或深衣
深外深雜綠黃衣

直衣

狩衣 或布衣

狩襖

又号表衣或合人半劍
又号之也又号狩衣

水子 咄下

小直衣

或作長衣古名聽衣
又神后院中未云々

衣

縫内以系繩美
米布以系

上袴

服未系
忌時用之

下袴

狩衣或白
狩衣或白

指貫 又奴袴

大口

生草指貫年日白
長草紅指貫

牙笏

礼服用

慶賀笏

菱菱或四角之私日笏云々
日本有子袖云々

馬鹿帯

丸鞆之加
方非云云

犀角帯

此方丸鞆只与馬鹿帯
此方丸鞆只与馬鹿帯

鳥犀帯

此方丸鞆只与馬鹿帯

挿帯 田銀通

時繪

或号子鞘或毛抜形
或号子鞘或毛抜形

黒漆方

沃懸地

大用之
給力巡之

黒漆方

六位用之有毛後被綴裝束
有草草之草草有縫物

靴 無縫著下袴也
靴文 樂唐草
西王母御衣等物
少抄云云

輪 無三系花山岳
日御初行等物
純可仍知

異文 法衣大長以後
某二系大長甲久秋
某氣与流以流及鞠
緒

卍 蝶 各並長及
曰下云云
六文 反身衣及
曰指費用云云

濃色 十五車御用
曰下云云
薄長 純紫
曰

花田 淺黃
薄青 緯白
緯青

蒲菊 深 經赤緯紫
赤色 經紫緯紫
比金襴 火色

皆練 曰又之
又織者有練了曰
二藍 曰經已下
而反

喪服篇

錫汗 云子
黑服 直衣狩衣皆
曰云云
素服 廿一
二緯云云

重服 父母夫
主君
纒纒冠 重長
天子不用之
細燕尾

赤漆 皆
無文 表裏花田
不畫文
純色 花田
長色皆勿繪

椽

蘇東山以爲
實燃作之今
五雲抄云云

故殿
所刺

象服事

唐緇名

宋在初治... 唐緇名

唐裝束事

土記云永承五年中殿云五節之方... 長治元八六弘微殿以講五局... 眼裏唐黃後物表袴小又極洗...

胡曹抄

一 天白袍

黃擅染

竹林為鳳... 又故... 受蕃客使喪... 帶及大小含黃折...

冬御袍

黑半臂

藕芳御下... 表白...

折袖

紅翠

縮綠後御表袴...

有文巡方帶

牙笏

夏御袍

黑半臂

藕芳御下...

紅翠

御表袴...

有文巡方帶

麴塵袍

号青色... 臨時... 庭... 月... 麴... 不用...

文相竹風風

冬脚袍

夏脚袍

種苦脚袍

櫻脚袍

表白帶表蒲陶保白中碎月

自餘回夏脚袍

種苦脚袍

赤色袍

二藍脚袍

日裏脚袍

帛脚服

平角白下衫

白羊

白袍

平角表袴

紅大口

脚排靴

無文巡方帶

一

同脚直衣

冬小葵後蒲陶或少

紅抄衣

白羊

引帶

望都畫脚座

紅張袴

如無藝時不著抄衣用生紅袴於靴衣時不著抄衣給中脚袴

深一沐一

夏二藍生脚直衣

自餘回

脚指費五節張是出脚

脚鞠時此例

小脚袴

堀川院射時合看給

一 冬上皇

赤入脚袍

種苦下衫

縮緬袴

表袴

布文巡方帶

牙笏

麴塵脚袍

自餘回

脚直衣

冬小葵後表蒲陶保夏二藍深

建之松及入通國白計中

如物御流及指括
如指費五節張夏生

案教文服白

波衣不
引出未帶

指費量織也或二寸織物二藍織

淺淡黃 或平指 身衣

指費量依年齡并長暗用

冠 或舊帽子

天法元三十二花見御幸上白紫二尺織物

指費紅打衣同二十雪見御幸御烏帽子直衣

紫織物指費紅園文織物衣章一深紫

係定西九其院登山烏帽子淺黃御指費黃衣

白生草

治承四三上皇初度御幸濃紫二色織物白凡文

門指費紅打門裝衣例御身衣

一 白生草

黃丹圓腕袍 童時

黑半臂

襪方下龍衣 御濁

縮線後表袴

陽文御帶 或有文丸鞆

紫檀心蝶細鈕

紫袴平指

線鞋 或靴

易 牙沙上承元二年二月壬子元服時裝束
寬仁元年八月廿一日白生草子初觀日同

刺文圓腕袍

童身六花散丸中有唐鳥表類久步

黑半臂 表濃打小葵後表水色
平指袖忘指四寸如帶

御濁下龍表 表白室
小葵後

中倍水色平指張
裏濃打單又後

紅打袖 小葵後表平指
十五寸系濃打

同草 草又後
或濃

縮線後表袴 表濃打織物紫
張平指表紅打或濃打

紅口張平袖

紅帶襪白長

廟赤色泥條以泥為

以上之書三年十月晉東山行啓之

元服 帶釵靴 取易

赤文縫腋袍 天子元服後 白解回之 帶釵靴

青文袍竹葉中袷衣不帶釵靴 天子元服後

直衣冬後小葵 夏二藍童時 二倍織物奴袴比文高甲白

紅掌比文高甲白 細長幼童時 或云此衣一尺七寸

一 親王

赤文織物兩腋袍席長小葵

有文九鞠帶

赤鞋 器角白解回之 赤黃袍黃深綠淺後謂之黃衣

黑中臂 綉馬 折下袷衣 綉綠結 有文織物表袴

有文玉帶 白解回之

直衣指貫比文高甲 建武三拜七若宮十七卷惟明元服表濃袴若

即衣三飲青掌葉織物奴袴 自余以危

童裝束 直衣冬後小葵白浮織物 白袴若 赤袴若 赤袴若 赤袴若

指貫濃紫二倍織物比文高甲 股白御袴

下袴若 赤袴若 取樣目

直衣男 指貫若 下袴白長 赤袴童通用

平日 赤袴若

以上之書三十二八伏見宮 貞常 元服時表束之

建久三九惟明親王元服門年七門壯衣束事

經房卿說建曆惟成親王曰

童直衣 織物直衣小葵又濃種芳山衣二領

青草紫織物奴袴 紅張下袴

童束帶 垂深織物兩版袍底長葵文打 躡躡中陪下張同又

帶 黑中躡月上法 縮家後束袴 濃表 濃打初

束濃種芳門初一領 門草濃張工口 有丸鞠

帶 泥給扇 襪 糸鞋 總角

元服以後束帶 御黃織袍全唐文 紅張山口 同又

步初 同又初 同又草衣 自練同又

建曆小葵文 曰又表 柳有黑氣黃之又濃

建曆二或記云門袍文或雲為由見記源小葵由

多又有不見之度物保定之注以有記物以作記之

又云程之今度物波記又多用表了

今案童服濃又男服紅色五端年例須但束帶不於如

直衣之帷童射入以後之濃色為四記所見大略如氏

一 夏冬下龍衣文事

打不表 表表引倍本之面白白堂之之卿及 躡躡表白堂表

躡躡日非之 柳表白堂表蒲陶或

柳表白堂表春

日表計一

身子重 表白表後芳行

白襲 表表白字平消更衣時

極練 表表紅折式表張

張下龍衣 表表長用或後唐箱又字箱

葵芳 表表老老

樺櫻 表表花二三月

白重 表表用之自冬至夏

深下裝 織物深又紅表其又定或又二至織物應織物度後深

你後不用之非其人深你後及而而深

蕪芳 表表自冬至春

椰濁 表表自冬至春

極 紅梅

松為小 樺櫻

柳 花山表表自冬至春

雨小 松室表表青表茶

菊 表白表表葵芳

白 黃色

夏下龍衣 單生之穀田

蕪芳 表表自冬至春

青朽葉 表表自冬至春

瑠璃色 水色

蒲陶深 表表自冬至春

山吹 表表自冬至春

柳 表表自冬至春

梅

藤 表表自冬至春

黃紅葉 表表自冬至春

黃青表

二藍 表表自冬至春

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

香深

同染下籠 生織物或唐物後亦具又之定元表或付表

襪号 二藍 舊之 二藍又ウスキ

青朽葉 四月 黃朽葉 七月至九月 萩 秋 素萩昔表青

萩短青 經青得獲昔表青 六月至秋 桔梗色

赤色 川二あ子をすそふ 萌木 卯色 口柳

女郎冠 表經青得黃表青 式不付表秋 盧橘 表朽葉表 青 五月

昌蒲 表青表紅梅 五月 暹麥 表紅梅表 六月

曳陪支 或稱引抄抄草之難不捲下、折之草支後之月之

四月表之他家祝端抄人

藻芳 又云蒲陶藻抄 濃打 保安二四月賀花行律法性寺 殿才五國白時用之紀東白字派

乃看引抄下經同為人字表利之抄即堂殿林時又格隈園白忠房 再人同日記之云見江長三年四月日御記

一 半辟月事 后忘二仙洞晴御會後若陀利花院殿直衣

今着引陪表紅打行

黑表濃打綾 女小葵 表平絹 水又 欄忘緒 羅

云打下袂表張古表時用之云濃後下之時用之又云大

又云表所用之字下辟月組比字絹縞紅梅比之織物細紙

皆織物也着織物下籠表時用同又半辟月

一 表袴事

編綴法 表此案文 帝王及童子必用之云壯年人聽 極又人老用之又一日晴宿老人若用

表十五年

聖文藤丸

公口無傳人

澤修織物或唐後唐倚亦是又多宗家嚴藤丸陛下衣冠

月三又亦定

聖子納非本議下常正表白宗表紅打袴首打

不聽極受人意

一 夏初用久衣束事

冬初用夏衣之相准五節

殿上人忌衣袍

二 奈大納言資季以書狀云更衣以布袴事都云才覺作將衣

節云自幼能川深下重切不忘衣以手括貴能政

兼之衣人指隈物柄打以衣因和敢自祭日改夏衣

冠御見及十月十日衣冠自云云

おめく云誠小堂以云後照院園白記元亨四年四月二日

未別衣因云冬衣子御見建永三年御門記同日

袖云夏衣衣茶肉

一 三四位袍生差別事

正曆三年九月一日小右記明順真人叙四位乞袍云和袍送

四不知何物云其報云云代云正位袍其又一同又完

袖云有出畏仍不習云云高方不少

寛弘三年小右記云叙四位去云代云云位以云袍極事

思案一宗院云后云稱云代云不久事復如

九月十月

白菊 表白表後芳

黃菊 表青

九月
黃紅葉 表黃

檀紅葉 表後芳

青紅葉 表青

橙 花白

赤朽葉

苔色 表青名三

海松色 表青

魚襖 表青

薄藤芳

表濃藤芳

黒木賊

青木賊

赤色 濃ト苗トテ

サノ青 日初

雪下 表紅中

枯 表白

秋色 瑠璃色

傳青丹

後菊 表中青

蝦手紅葉 表青

黃朽葉

橙皮 表後芳

濃藤芳

藤芳香 表後芳

黄木賊

氷 表白無又

枯野

比金襖 表青

紫苑 表青

鳥子室 表白

萌爪 濃

赤香

瑠璃色

二藍 表花ト青花

淡黄

青鈍

花田 濃

薄青

若蝦手 表後芳

龍膽 表後芳

水色

苗色 表青

赤朽

魚陵 山後

虹色

青又 表青

紅葉重八

青丹 表青

松重

怪練 表青

香文濃

薄色

濃赤 濃紫

薄青文濃

白襖

若白色 出後

木蘭比

青丹 濃青

和らえて

長房も濃房の

紅

紅物ヨリハ

からくろく

伊氏イシキ當色

私云謂色を以て衣服令義解又當又ノ如本ニアリ

濃

鐵物紋緯
古濃紫

薄色

冬紫
又キ白

半色

紅緯
冬紫

花田

伊氏

薄青

純白
緯青

香

就老乃深哉

蒲陶珠

紅赤緯紫

赤

緯紫

萱草

掛子又ノ略曰
冬紫又ノ保ニ

鏡

山祝ウシ花ニ深

東山乃有

又云花田保之又武云乃花又トシ入トク又青ニ色アリ又をハ
そのこのこと又ノあまのの月々又ノ玉盤

巾一ふくれの井たうすき又といは尼もなるとか
ふねのふらふられが井たうすき又といは尼もなるとか
みししり

女房のいづらり
女房も濃房の

女房も濃房の

一 女房夏冬装束

忠順記永曆二年正月廿九日申朔云申の嫁装束イナシ今夜

女房も濃房の

女房也人妻濃袴芳表五帯又青草濃打衣

柳唐衣

白腰裳

濃袴

扇

各々表イナシ

童二人

表濃

藤芳袖上

青草濃

藤芳表

著濃打袖

表濃

藤芳行袂

濃袴

泥繪扇

半物二人 裏濃 蕙芳 柏五 唐甲文 青草濃打柏

柳唐衣 立文 濃袴 扇 當

下仕二人 白衣五 白草 濃打衣 白打唐衣 濃袴

扇

雜仕四人 裏濃蕙芳四 唐甲文 青草濃打柏 赤文權 二人

二人 懸紳 二人 柳 白裳扇 榻 榻目 笠 虎切

御搥洗二人 裏山吹柏 立通 青草 白裳 扇 笠

虎切

同記 永曆二年二月二日今日中納言殿後御才買

是日人改著裝束

女房上臈四人 表白 立佛云文 青濃袴 唐甲文

紅草 蕙芳織物表著 唐甲文 紅打衣 萌衣織物唐衣

唐甲文 紅袴

中下臈六人 表白五 立文 濃薄青濃薄色 唐甲文

紅草 立文 蕙芳織物表著 唐甲文 紅打衣

萌衣織物唐衣 唐甲文 紅袴

童衣 白三 立文 紅草 打打柏 柳打紅袴 扇 敬唐

下仕用 立文 裝束

半物初五 唐甲文 紅草 打打柏 唐衣 柳扇

雜仕 山吹白四 青草 打打柏 二藍帷 唐甲文

白唐後懸紳 村濃表衣

門極洗用初夜裝束

廣事記平治元年七月一日二系抄改迎信賴妹給

由車女房廿人裝束 薄襖芳 半室

濃引倍不 濃襖芳織物表着 三舞甲 女唐表衣

織物 薄表衣 女房物 濃張袴 泥給夏扇

童女二人裝束 白半室 濃引倍不 濃襖芳織物表

着 同色沂秋 濃張袴 泥給扇

半物四人 薄襖芳 半室 袖濃引倍不 濃張袴

同扇

下仕五人 白半 室濃引倍不 濃張袴 日扇

雜仕四人 襖芳半室袖濃襖芳惟 白表 同扇

懸紳 庶切

門極澄二人 襖芳半室袖 白表 扇

下仕以下自宗迄衆入

同記 平治元年七月曾之及女房三下給襖表裝束

女房廿人 各女郎半室 紅生袴 并藍唐衣

朽葉表 村濃腰

童女二人 各薄色半室袖 紅生袴

半物四人 各秋立青半室袖 紅生袴

雜仕四人 薄青草重箱 濃羅方帷 白裳
門楹澄二人 各持菓草重箱 紅裳
下仕二人 薄羅方草重箱 紅生袴

月輪殿門記

治承四年六月九日右大将良通 花院中納言兼雅卿娘女
房小只衣上著裳唐衣不著表著打衣張袴小依略

儀之

元治元年七月廿二日宮內內務院初奉女房奉一柄
女郎花草重箱表赤之唐衣比摺裳張袴
和禰之奉七月十七日鷹司院門內出車衣羅方張草

中務衣女郎花草重箱三柄小三區唐衣張袴
建之三年七月十三日宣陽門院門奉出車五輪女房衣
羅方草重箱女良衣表赤二區唐衣中物奉立之草重
羅方表赤中即也唐衣

久安三年四月九日中宮行啓 皇后理髮門衣一領緋表濃
草綠黃張袴紅 表衣上青折葉唐衣紅赤比摺裳
後二位友事子理髮衣一領緋表草衣緋紅張袴
表赤表黃折葉 唐衣生黃比摺裳

一 打出事

康和二年七月十七日今日於東三條被行大御儀知是院

寢殿南廂自東才一二三并西廂北戶簷內每間之
儿帳女房出袖紅綾單衣二藍織物表衣長衫單織物
唐衣也

嘉禎三年四月七日此日大正下(寢殿南廂才一二間)并同
東廂南四間右打出羅縠衫引信牙青朽葉表衣
二藍唐衣永之例(以衣六色)出之(百寶)治八回七六院
布(日)中宮女房打出女郎唐衣村濃衣長襪方深綾
單衣建久三十五(中宮)測辨殿(小)書戶(也)打出

為為小紅單紅打紅物衣
長蒲陶深唐衣白腰裳

元曆二年除時容日打出單衣白紅單衣紅打衣表山吹表

慈上朝小唐衣也

建曆二十所襪行幸門柳敷打出襪方白青單衣紅
打衣黃青裳(長)兼深唐衣腰裳

一 宮門裝束事

弟派元十月一日謹方今日宮門更衣(子)相(系)事

相進門服榮(河)衣八領上立衣(後)方白
下白三領白(即)衣青門草紅打

打衣黃青裳(門)表(長)龍騰(小)褂赤(門)唐衣(已)又(兼)
九白(黃)房送門(扇)門(小)袖(門)裳(門)長(袴)

一 女房門裝束事

永曆二正廿九中納言中時嫁娶 唯君(子)

白御衣八濃足門草濃打門衣薄襦方之織物表

总 甲文 襦袴方之織物小打总知濃張袴

元永元十廿二内大臣嫁娶 氏月御長女生年九

白衣八濃草衣濃袴蒲陶深三重織物小褂

平治元七二六条横政嫁娶 于時園白石米門衣信袴

松重二倍織物小褂 濃襦方二倍織物表著濃引倍木

薄襦方草重濃張袴門扇

元曆二二二中納言中将嫁娶後身四日裝束皆紅門衣六

小葵文 紅門草白二倍織物門表总 松重小褂

总 吉張門袴

文派二七七 女房始总節候女房总二藍草重女房也二

色織物表总 襦袴方之重織物小褂 生衣袴 浴服

女房 总女房 并取入女房皆总物之張袴小也女房同

以文列衣裳役儀

一 細長事

建曆元四十外君有志京非云白之織物細長白織物

小袖之不用細長之時不用袖袴亦是先例也

一 押出事

建久二四十三於中宮有童童事 寢殿東南面

垂簾也几帳如常南面七之間除階間之也女房

有押事非指出只而不用之房綿衣亦袖不西子午

廊小滌之間同出是余女房見物而之病衣時の押出ハ不出

考若意勝淨之仍今日云
建久二十二中宮測碎

一、儿帳事

建久二五廿七最勝講身二日中宮昇治上門垂祢門裝

末其後見指家之略以夜門殿西一間為上門垂祢

末初小之方之廻五人屏風其中東西行敷纏網端

二枚之敷東京綿茵一枚南面ハスケルハテ立三人

儿帳一三也惟時給并副南簾立四人儿帳六幅長白大

以以囊單又房物以神音綠青畫風風竹桐蝶小鳥亦鳥油亦又
房物係糸織之箱被益所為小華蝶小鳥亦

出秋袖二貝紅房樣總室白生草衣五門信音青朽

葉表著二藍唐衣白勝衣亦之封限昇給女房五人

物々著後儀如常女房之位殿不送物々著若唐衣

許容々亦入

建久二二二廿日東有各兒師事南殿門後懸翠簾以

西間出側儿帳不為中宮門座敷纏網端二枚之廻屏風其西間

女房出袖是非指出之受不若若只如房同年十二中宮測碎

寢殿東面西之折有押出

建久二十一廿節亦入主上門裝末小奏後即自衣白衣

二領白草衣江打門衣出給之濃紫霞地窠又門揚費

は文織也之非之也
撥白也服白也人

白下袴白袴白袴白袴

衣色異脱せしは

袴白 袴白 袴白 袴白

袴白 袴白 袴白 袴白

花柄依 表白し

花柄依 表白し

二月正月 紅梅 表白

紅梅 表白

白藤 表白し

白藤 表白し

不変 表白

不変 表白

雲脚 表白

雲脚 表白

紫牡丹 三月正月 表白

紫牡丹 三月正月 表白

表山吹 表青

表山吹 表青

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

白の衣 表白

友後 後山

三ノ 後山

三ノ 後山

つわ 後山

つと 後山

つと 後山

つと 後山

つと 後山

八胡事

正應二年門記云々

中ノ 後山

後山

就門記云々

新二冊當家着用

北用板ノ極秘重寶

可出箇底依三任中

上加書寫下色敵云々

天文十三年六月吉日

后承相判

大英十一年十月五日

二號台

此信係由本館代寄

凡我網版家門前如有本館代寄之信

或函翰一若數份係欲寄者請向本館

轉一轉相與本館無異也此佈

大英十一年十月五日

本館代寄之信

凡我網版家門前如有本館代寄之信

